

新聞記事を集めることから始まるN I E入門学習

神戸市立高羽小学校 校長 姫野 俊幸
教諭 加藤 千晴

1. 実践の概要

・高羽小学校は全校児童 1000 人を超える神戸市灘区に位置するマンモス校である。校区は六甲山系を望む阪急沿線の比較的落ち着いた環境に位置し、児童の生活環境も豊かである。

・本校では今までN I Eの学習への取り組みを行ったことがなく、今回初めて実施するに当たって、5年生の児童に新聞を読む経験をさせ、新聞に親しむことから始めた。

2. 新聞の置き場所と整理の方法

わが校の5年生は、校舎の3階に1・2組、4階に3・4・5組と階を隔てて位置するため、新聞の置き場所も3、4階の二つに分けた。そこで、各紙3、4社の新聞を奇数日と偶数日に分け、廊下の共有スペースに置くこととした。



もちろん階によって新聞記事の内容も異なるため、階段を行き来していつでも

新聞を読める環境を確保した。

児童は、休み時間に自由に新聞を閲覧でき、また1週間たてば、新聞からお気に入りの記事を切り抜くこともできた。

3. 実践の内容

①朝の会の1分間スピーチから新聞を

クラスでは、今まで朝の会のスピーチのネタを毎日の暮らしや出来事から選び話す児童がほとんどだったため、今年は「新聞の記事をネタに毎日のスピーチをしよう」と担任から児童に呼び掛けた。初めは少し戸惑っていた児童も、徐々に新聞を読み記事を切り抜いて発表するようになった。

新聞ネタを取り上げるときの注意点としては、「新聞記事をそのまま読まない」という点である。記事を読むことにあまり慣れていない児童は、どうしても記事そのままを読もうとする傾向があった。担任としては、ただ読むのではなく、記事の内容を理解してみんなに伝えることを大事にしてほしかったので、児童には、記事を読んで分からない言葉は周りの人に聞くか国語辞典で調べるかして、記事を別の紙にメモしたものを読むようにさせた。そうすることによって、新聞記事の内容をより自分のものとし、人に伝える際にも分かりやすく自分

の言葉で伝えることができるのではないかと期待したのである。

運良く、初めにスピーチを行った児童数人が、記事をメモして自分の言葉で伝え、日番日誌(今年度は「新聞記事記録ノート」になっていったが)にスピーチした記事やメモした用紙を毎日貼りつけていった結果、1年間で3冊もの新聞記事ネタノートができた。しかし、そこは児童の興味と関心で集めた記事ネタなので、全体的なニュース報道ではなかった。新聞の小さな記事を取り上げた児童もいたりして、案外、面白い記事の集まりになったかもしれない。



②新聞記事スクラップノートを作ろう

児童の家庭で購読している朝刊や夕刊の中から、お気に入りの記事を選び、B5判の大学ノートに切り抜きを貼って記録していく。選ぶ記事は自由だが、あまり悲惨な殺人事件や事故ばかり載せないように、初めに注意した。その点以外は全くの自由選択のため、36人の児童は自分の興味・関心によって実にさまざまな記事を選び出した。内容も、時事ネタはもちろん、スポーツや芸能、動物ものや季節の話題まで多彩である。中には、鉄道好きの児童がさまざまな鉄道関係の話題を探し出し、まるでシリー

ズのように鉄道記事を記録していく様子はとても楽しそうだった。

児童の集めた記事のスクラップノートは、毎日ではなかったが、1週間に1度、金曜日に提出し、担任が目を通してコメントを付けて返すことにしていた。幾つかの記事は、毎週みんなに紹介した。同じ記事をスクラップしている児童が多いときには、その記事の内容が世間の人々にとっても大きな関心事なのだと分かった。

この新聞記事スクラップノートにも、担任からは児童にある条件を付けた。それは、記事を切り抜いて貼るだけではなく、必ず日付と新聞社名、記事の内容の説明と記事を読んだ感想を書くことである。記事を貼るだけなら簡単だが、説明や感想を書く作業は、5年生の児童にとってはなかなか大変だったようである。

しかし、慣れてくるに従って、新聞記事を切り抜いてのスクラップを楽しむようになってきた児童も現れた。日記の中で「初めは面倒くさいなあと思っていた記事集めが、だんだん楽しくなってきた」とか、「新聞に全く興味なかったけど、最近は新聞を読むようになってきた」などの感想を書いてくる児童が増えてきた。

③「お気に入り新聞」を作ろう

9月からは、各紙の新聞が学校に毎日届くようになったため、新聞を読む環境がぐんと良くなってきた。そこで、児童にも新聞記事を使って、お気に入り新聞を作成することにした。

B4判の用紙に、最近集めた記事の中からお気に入りを選び、記事ごと貼りつけて、自分なりの説明を載せ、読んだ感想を書いた。

児童は、年度当初から新聞記事スクラップノートを作ってきているため、比較的スムーズにお気に入り新聞を作成できた。出来上がった新聞を見ると、児童それぞれが選んだ記事が、決して同じような内容が並ばないことに驚いた。新聞がいかにも多種多様な分野に分かれて掲載され、多くの人に読まれているのかを、児童の記事選びを通して、感じる事ができた。

④震災記事特集

今年は、阪神・淡路大震災から20年という節目でもあって、例年以上に震災関連の記事を掲載する新聞社が多かった。それは学校に提供されているNIE関係の新聞各紙の記事も同様である。そこで、12月から1月の2カ月にかけては、特に震災記事を中心に集めることにした。

3学期は、社会科で「情報を学ぶ」授業を行う予定でもあり、毎年、テレビのニュース番組作りを中心に取上げていたが、本年度は新聞と新聞社の仕事を大きく取り上げて授業を行っていくことにした。

1月には、NIE関連の出張授業で新聞社の方から、新聞社の仕事や震災報道について学び、1月26日には、校外学習で神戸新聞社の見学に訪れ、実際の報道の現場に来て、新聞社の方々から新聞がどうやって出来上がっていくのかを教えていただいた。

やはり実際に新聞社で働く人々の様子を見ると、児童たちは興味深く実感が伴うものであったようだ。震災についても、同じビルの2階に震災報道を展示しているスペースがあり、学習に大いに役立った。



ここでも、震災記事を集めたので、その中から一つの記事を選び、震災記事特集新聞を書く児童が作った。この学習を通じて、20年たっても変わらない震災への人々の思いと命を大切にすることを学んだようだ。また、防災について多くの記事に書かれていることから、来るべき大きな地震への備えと防災についての意識を高めることの大切さを感じた。



⑤新聞社見学の新聞を作ろう

神戸新聞社へ見学に行って知ったことや学んだことを新聞にして、自分たちが記事を書いた。



4. 実践の感想と今後の課題

今回、N I Eの実践活動を行って、それまで新聞を読む習慣がなかった児童が積極的に新聞を読もうとするようになったり、新聞スクラップノートを2冊、3冊と増やしていく児童が出てきたりして、楽しそうに活動する様子を目にした。

また、最後の授業公開を終えて、新聞スクラップノートも今週で終わりにするとき、「まだ5年生は終わっていないので、最後まで新聞記事を切り抜いて、スクラップノートを続けるよ」とか、「これからも、新聞スクラップノートを続けていくよ」などと、意欲的な児童がクラスの中で出てくれたことが、何よりうれしい成果だと思われた。

課題としては、新聞を読む環境が年々少なくなっている点である。インターネットや携帯のスマートフォンなどが普及して、

日常生活から新聞を読まなくても情報を取得できる世の中になってきたことで、各家庭での新聞購読が減ってきているのは事実である。本年度、新聞記事スクラップノートを続けていく中で、新聞を取っていない家庭の児童が、新聞記事を集めるのに苦労している様子を見ていても、その事実は切実に感じられた。

では、時代の流れとして「新聞を読まなくても構わないのか」と言うかもしれないが、今回、新聞記事を集める活動を行って、あらためて、情報を伝えるだけでなく記録する機能が新聞にはあり、繰り返しじっくりと記事を読める利点にも気付いた。これは、授業の中で児童の感想としても出てきた新聞の大きな特性であると思われる。

最後に、以前から、N I Eの活動に興味はあったが、実際どんなことをするのか分からなくて、新聞の紙上でN I E関連の研究會のお知らせや授業の取り組みの記事を読む程度だった。しかし、本年度N I Eの実践指定校になり、手探りではあるが新聞を読み、新聞を使って授業を行えたことは、とても興味深く、面白かった。また機会があれば実践してみたいと思った。

この活動を通して、児童が少しでも毎日の新聞を読み、身近な情報源としての新聞を活用しながら、社会のさまざまな知識を増やし、自分なりの考えを深めていってくれればと願っている。